

関係団体から寄せられた意見

(本日のヒアリングの進行順に掲載)

- ①全国高等学校長協会
- ②日本私立中学高等学校連合会
- ③産業教育振興中央会
- ④社団法人全国高等学校 P T A 連合会
- ⑤全国都道府県教育委員会連合会

- ⑥全国国公立幼稚園長会 (書面のみ)
- ⑦全日本私立幼稚園連合会 (書面のみ)
- ⑧日本私立小学校連合会 (書面のみ)
- ⑨社団法人日本 P T A 全国協議会 (書面のみ)
- ⑩全国市町村教育委員会連合会
- ⑪全国連合小学校長会
- ⑫全日本中学校長会
- ⑬全国特別支援学校校長会

平成 21 年 9 月 29 日

中央教育審議会
キャリア教育・職業教育特別部会
部会長 田村哲夫 殿

全国高等学校長協会
会長 戸谷 賢司

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について
(審議経過報告) 平成 21 年 7 月 30 日」に関する意見について

貴審議会、キャリア教育・職業教育特別部会での今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方についての熱心なご検討に対して敬意を表します。本協会としても日本の高等学校におけるキャリア教育について検討をしてきたところでもあります。今回、今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（審議経過報告）平成 21 年 7 月 30 日が発表されましたので意見を申し述べます。

I 現状と課題

若者、経済・社会、学校、社会全体の現状と課題と分けた分析はそれぞれ資料等を用いて行なわれており卓越したものと判断します。しかしながら「3. 学校の現状と課題の 5 項目に専門学科に比べ、普通科の卒業生に非正規雇用者が多いといったデータに見られるように、特に普通科における教育について、社会・職業との関わりがあまりにも薄く、社会・職業への円滑な移行の観点から問題がある。」についての学歴別の正社員の割合については、貴重な資料ではありますが、確実にするためにさらに詳しい、新たな調査の必要性を感じました。また、「4. 社会全体を通じた現状と課題の 2 項目に、普通教育中心・座学中心の教育には、職業的自立を促す観点から限界があるのではないかと考えられる。」とありますが座学中心の教育が何を指しているのか分かりにくいと思われます。同じく「4 項目に、中学校において、将来の職業生活等を考えた上での進路指導は必ずしも十分に行なわれていない事例が指摘されている。」この指摘に関しては、中学生に対する教育が、職業生活を具体的に考えさせることよりは、勤労観や職業観を考えさせることの方が重要であるとの方針をとっており、自分の職業を具体的に考えるところまで至らない現状があると認識しています。

II 改革の基本的方向性

「1. 義務教育から高等教育に至るまで体系的に身につけさせるため」の視点は非常に重要と考えます。体系的なものは諸外国で見られますが我が国でも必要と判断します。また「2. 職業教育の意義を再評価し」とありますが、後段で述べられている地域との関わりの中で推進することは、様々な地域の状況から難しい部分があると思われます。

III 後期中等教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方

「1. 後期中等教育における学校制度の経緯とキャリア教育・職業教育の課題の指摘事項 2 項目に、専門学科については、半数が就職し、地域の産業界の人材ニーズが強い一方で、」とありますが、本年度は求人票数を見ると地域のニーズが少なく困っている現状が

あり、現状との乖離を感じます。「3. 高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実と高等学校の在り方（1）各学科に共通する課題、特に普通科の課題と改善の方向性の②推進方策、指導の在り方の2項目『産業社会と人間』の考え方については、様々な事情を持つ普通科があり柔軟な対応が求められていると判断します。さらに「方策2項目、就業体験活動など多様な体験活動の機会を向けることが必要である。」とありますが地域によっては、受け入れ先がないとの現状があります。従って⑤推進体制の整備の指摘事項の2項目3項目にあるように外部人材やキャリアカウンセラーの必要性に繋がります。「（2）専門学科における職業教育の課題と改善の方向性①専門高校に対する期待と役割の4項目、一部の学科を除いて学科と職業との関連性は弱まっている傾向にある。」との指摘は就業先がないのか学科が時代に合わないか判断に迷う表現です。（ii）施設・整備の改善・充実は是非必要です。2項目に関しては、これからは情報通信ネットワークの利用が役に立つと考えられます。

IV 高等教育における職業教育の在り方

「3. 各高等教育機関における職業教育の充実と、職業実践的な教育に特化した枠組みの整備（4）職業実践的な教育に特化した枠組みのイメージ」では従来の大学との関係がどうなるかの記述が必要になると思います。現在の大学進学者の現状を考えると、このような取組の必要性は認められると考えます。

V 各学校段階を通じたキャリア教育・職業教育の在り方

「1. キャリア教育・職業教育の質の保証・向上（2）後期中等教育における職業教育の質の保証・向上2項目、②各種検定試験制度の積極的な活用」については、賛同致します。「3. 学校と産業界をはじめとする地域の連携、学校間や関係府省間等の連携（1）学校と産業界をはじめとする地域の連携の2項目、地域の人材は地域で養成する」との観点が地域企業の状況が様々であり、その面でやや無理があると思われれます。また、新たな今日のネットワーク社会や高齢化社会での人材ニーズの対応も必要と思います。

以上表題に関する意見を申し述べました。

今回の審議経過報告「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について平成21年7月30日」の内容については、今後の日本の教育を進める上での貴重な提言がなされていると判断します。特に、「改革の方向性1、義務教育段階から高等教育段階まで、勤労観・職業観や社会的・職業的自立に必要な能力等を体系的に身に付けさせるため、キャリア教育の視点に立ち、社会・職業とのかかわりを重視しつつ教育の改善・充実を図る」ことは、我が国の高等学校教育にとっても重要なことであり、高等学校教育の喫緊の課題であるとも言えます。今回の学習指導要領の改訂が同じように義務教育段階からの体系的な形に整理されたことと相まって我が国全体の教育の質の保証にも結びつくと考え、この実現を要望致します。

また、職業教育については、そのニーズをきめ細かく把握して対応されることを望みます。特に、普通科における職業に関する教科・科目の充実については幅広い普通科の実態を鑑みると、一律な形のものでなく、高等学校が生徒の実態や地域の状況により工夫できる余地や裁量を残すべきであると考えます。

高等教育については、その特色を十分に発揮され、キャリア教育・職業教育を推進し、高等学校の生徒が具体的なイメージや目標を持てる形にして欲しいと要望致します。

最後に貴特別部会が今後の審議を充実させ、日本の教育の推進に大きな力を与えられることを期待しております。

平成 21 年 9 月 29 日
日本私立中学高等学校連合会

中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（審議経過報告）」について（意見）

このたび貴特別部会が「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（審議経過報告）」を公表され、とりわけ後期中等教育に焦点を当てて「キャリア教育・職業教育」の問題点と今後のあるべき方向性を提示されようとしていることに、まず敬意を表します。

ご承知のとおり、私立中学校高等学校はそれぞれがバックボーンとしての独自の建学の精神を掲げ、それぞれが多様な教育実践を展開しています。

その中であって、私立高等学校では、普通科、専門学科を問わず、生徒一人ひとりの個性を尊重した進路指導—上級学校への進学であれ、就職指導であれ—を、教科教育はもちろんのこと、総合的な学習の時間、特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）など、あらゆる教育機会を通じて、学校として総合的に取り組んでおります。

具体的には、生徒の卒業後の進路をも見据えて、生徒自身が自己実現を図れるようなサポート体制を敷くなど、常に生徒との連携を欠かさず、自分の力で問題を発見・解決できる社会人になってほしいという願いを込めて、日々の教育を全面展開しているところです（【参考資料】）。

一方、キャリア教育・職業教育は生涯教育（学習）を通じた、すべての学校段階で体系的に実践されてこそ、その実をより上げ得る性格のものと思料します。このたびの審議経過報告では、高等教育・後期中等教育段階を先行して議論されましたが、「今後、小学校、中学校についても検討を深めるとともに、家庭との連携や、社会・職業への移行後の生涯にわたるキャリア形成支援等についても、併せて検討を行いたいと考えている」との報告前言に期待し、さらに議論を深めていただきたいと存じます。

以上

【参考資料＝日本私立中学高等学校連合会】

一私立高等学校のキャリア教育・職業教育の実践例紹介ー 《T女子学園高等学校（東京）ー教育プログラム>ライフプランニング》

教育プログラム

● ライフプランニング ● カリキュラム ● 国際教育

自分の生き方を見つめ、未来を輝かせるためにー。

“一生”を展望する進路学習。

社会で活躍できる女性になるための女子校ならではの取り組みです。自分はどんな仕事につき、どういう生き方をしたいのか。自分なりのライフプランをつくり、夢を実現するために具体的に進路を決めていきます。



進路学習

自分はどう生き、どうあるべきか。
進路学習は“一生”という
広いフィールドに立って行われます。



中学では、「自分を知る」「自然を知る」「社会を知る」をテーマに、環境問題・ボランティア活動・職業調べを通して「いかに善く生きるか」を探ります。

高校では、「現在の自分と適性を考え、ライフプランを設計する」「大学の研究、学部・学科を知る」「夢への挑戦」をテーマとして学年の成長にふさわしい進路学習を行います。自分を発見し、職業を研究し、また大学を知って、高校卒業後の進路を考えていきます。

さまざまなプログラムを通して、大きな視野で未来を展望できるように支援し、夢の実現に向けて努力していく心構えとチャンスをつかみとる学力を構築します。

	テーマ	関連行事
中学1年	自分を見つめる 環境問題を考える	オリエンテーション合宿 講演会「人との出会いを大切に」 映画鑑賞 講演会「環境問題」 環境問題研究発表 ●面談(6月・9月)
中学2年	ボランティア精神と その実践	講演会「ボランティアについて」 ボランティア活動 ボランティア活動報告と発表 ●面談(6月・9月)
中学3年	職業を調べる 自分を知る	講演会「職業・夢について」 職場訪問 職場訪問の報告・研究成果発表 ●進学フェア ●面談(6月・9月)
高校1年	夢や人生を考える (ライフプランの設計)	オリエンテーション合宿 自己発見リサーチ オープンキャンパスへの参加 職場・職業人レポート キャリアガイダンス 進学講演会 卒業生講演会 ●進学フェア ●面談(6月・9月・2月)
高校2年	進路目標の設定 学部・学科と大学の研究	自己発見フォーカス オープンキャンパスへの参加 キャリアガイダンス 進学講演会 卒業生講演会 受験体験談 ●進学フェア ●面談(6月・9月・2月)
高校3年	進路を具体化し、 目標達成に向けて進む	大学センター試験説明会 キャリアガイダンス ●進学フェア ●個人面談(通年) ●センター試験説明会

ページトップへ



進学フェアの様子

東京を中心とした約80の私立大学から先生方を招き、それぞれの大学について個別に話を聞く「進学フェア」を2日間にわたって開催します。中学1・2年生は保護者と一緒に、中学3年生以上は一人でも参加できます。

中学生にとっては将来の夢を実現するための手がかりを探る有意義な場です。また高校生にとっては具体的な進路を見出し、実際の受験に役立つ情報を得る貴重な機会となっています。



卒業生講演会の様子

社会の第一線で活躍している卒業生を招き、現在の仕事について、またその仕事に就くために必要だった勉強や、努力してきた過程について話を聞きます。生徒たちの注目度が高い職業を中心として、多彩な職域の卒業生に協力をあおぎ、仕事の喜びや苦勞を率直に語ってもらうなかから、しっかりとした職業観を育て、進路選択の参考にします。

自分の将来・可能性に挑んでいく
強い気持ちを育てます。

自分で問題解決できる能力を育むよう、キャリア・
コンサルタント（CDA・GCDF）がグループ・ワーク&
個別カウンセリングを担当し、教職員とともに一人ひ
とりのキャリア発達課題を、協働で解決し生徒のスキ
ル・能力開発に取り組めます。



高1カリキュラム

- キャリア意識／
進学意識アンケート1
【自他の理解能力】
- ワークショップ1
相手の話を聴くスキル
【コミュニケーション能
力】
- 個別相談1
【情報収集・探索能力】
- ワークショップ2
相手の話を聴くスキル
【コミュニケーション能
力】
- 個別相談2
【情報収集・探索能力】
- キャリア意識／
進学意識アンケート2
【自他の理解能力】

高2カリキュラム

- ワークショップ3
自分の価値観を明確化
するスキル
【選択能力】
- 個別相談3
【職業理解能力】
- ワークショップ4
自分のキャリアを描く
スキル
【役割把握・認識能力】
- 個別相談4
【職業理解能力】
- キャリア意識／
進学意識アンケート3
【自他の理解能力】

高3カリキュラム

- ワークショップ5
自分の将来を創造するス
キル
【計画実行能力】
- 個別相談5
【課題解決能力】
- 自己実現・
将来の夢の実現へ



高いキャリア支援スキルをめざす学校

自分の将来・可能性に挑んでいく強い気持ちを育てます。

キャリア教育プログラム

その目的は「彼女たちの豊かで幸せな人生」に集約されています。

一人ひとりが「いかに善く生きるか」を考え、ビジョンを描き、その実現に向けての最適なステップを歩んでいって欲しいのです。就職や結婚、出産を経てキャリアは広がります。年を重ねるほどに生き生きとした輝かしい人生を送るためには、コミュニケーション能力や選択能力、さらに自ら課題解決できる能力が必要です。本校では、専門のキャリア・コンサルタントがキャリア教育をプログラムし、教員と協働で生徒のスキル、能力開発に全力で取り組んでいます。



自己実現・将来の夢実現へ

個別相談5【課題解決能力】

ワークショップ5 自分の将来を創造するスキル【計画実行能力】

●高3カリキュラム

キャリア意識／進学意識アンケート3【自他の理解能力】

個別相談4【職業理解能力】

ワークショップ4 自分のキャリアを描くスキル【役割把握・認識能力】

個別相談3【職業理解能力】

ワークショップ3 自分の価値観を明確化するスキル【選択能力】

●高2カリキュラム

キャリア意識／進学意識アンケート2【自他の理解能力】

個別相談2【情報収集・探索能力】

ワークショップ2 相手の意欲を引き出すスキル【コミュニケーション能力】

個別相談1【情報収集・探索能力】

ワークショップ1 相手の話を聴くスキル【コミュニケーション能力】

キャリア意識／進学意識アンケート1【自他の理解能力】

●高1カリキュラム



生徒一人ひとりが未来を創造できるように育む学校

キャリアガイダンス

プログラム例

キャリアガイダンス

プログラムⅢ-⑤
【役割把握・認識能力】

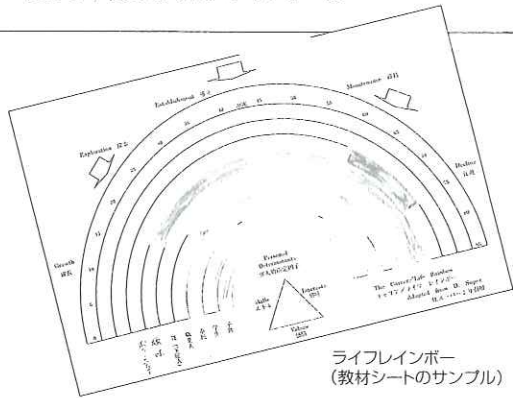
ライフロール・アクティビティ

SESSION I. 「将来イメージ」

- ガイドイメージ「10年後の自分」
- シミュレーション・ゲーム
- 選択と結果の関係
- 転機の決断
- 前にしか道はない

SESSION II. 「ライフロール(人生の役割)」

- ライフロールとは
- キャリア発達のステージ
- CAREER / LIFE RAINBOW(ワークシート)
- 現在のレインボーは
- 10年後のありたいレインボーは



グループワーク風景

◀ ファシリテーターが生徒たちのワークを支援します。

◀ ゲーム性も取り入れて生徒たちの積極的な参加を促します。

◀ グループがえて新しいメンバーとコミュニケーションを図ります。

◀ グループの成果は参加した全ての生徒たちにシェアされます。

◀ キャリア相談

◀ 生徒一人ひとりの悩みを受けとめて自立できるよう支援します。

進路学習プログラム Promising Future ライフプランニング

自分の将来をしっかりと考え、描いた未来像に向かって確実に歩んでいくためのプログラム。

自分や社会を広く知る

中1
自分を知る 自然を知る

中2
社会を知る ボランティア

中3
社会を知る 職業調べ

将来の夢を具体化する

高1
ライフプラン作成
キャリアガイダンス

高2
大学の研究 学部・学科を知る
キャリアガイダンス

高3
夢への挑戦
キャリアガイダンス